



足利・名草 ふるさと通信

平成21年(2009年)1月15日 発行

編集・発行：足利・名草ふるさと自然塾運営協議会

事務局：足利市役所 産業・環境部農務課
〒326-8601 栃木県足利市本城 3-2145
TEL:0284-20-2161 FAX:0284-21-0643
E-MAIL: info@ashikaga-nagusa.com
ホームページ: http://www.ashikaga-nagusa.com

主な記事

- ①足利・名草ふるさと自然塾について
- ②(仮称)体験の家建設計画について
- ③写真コンクール受賞者決定！
下野ふるさと大賞準大賞受賞！
- ④地域のページ

足利・名草ふるさと自然塾について

足利・名草ふるさと自然塾は、名草地区に残る豊かな自然環境や施設、人的・文化的資源などの特性を生かして、「自分でものをづくり、参加し、体験すること」で自己を発見し、開発する余暇活動の

場を提供します。市民の皆さん及び両毛地域にお住まいの皆さんの日帰り利用をメインターゲットとして、平成二十三年度開通を予定している北関東自動車道や鉄道を使った日帰り利用や、宿

泊滞在しながら利用する東京や埼玉方面の首都圏住民をターゲットに広く誘客すること、都市住民との交流を図り、地域の活性化を目指して活動をしております。

足利・名草ふるさと通信発刊に寄せて

足利・名草ふるさと自然塾運営協議会

会長 青木 孝夫



新年明けましておめでとうございます。足利・名草ふるさと自然塾も昨年五月協議会として新たにスタートしましたが、この度十一月七日に下野新聞主催の「下野ふるさと大賞」で準大賞をいただくことができました。これも多勢の皆様のご協力とご指導の賜物と、深く感謝致します。又、農家と学校等が体験の機会を子どもたちに

提供するための事業「教育ファーム」や、「子ども都市農村交流(グリーンツーリズム)」を推進する県、市町村独自の取組に積極的に支援を行うと農林水産省より発表がありました。自然塾の目標としている都市農村交流で地域を元気にと推進している中で、このように国、県、市共に後押しする機運が高まりを見せ、自然塾にかかると期待と責任は更に大きなものがあると痛感致します。

このような状況の中で、地域において私共の怠慢で自然塾のことを理解されていないことを痛感致しまして、今回「足利・名草ふるさと通信」を毎月十五日に発刊して、皆様に自然塾他支援母体である名草里山の会や、関係するボランティア団体等の活動や情報も含めて細かにお知らせしていくことになりました。しかしながらこれは自治会の皆さんのお手を煩わすことになり誠に申し訳なく思います。どうぞご理解の上、今後よろしくご指導ご協力をお願いし、「足利・名草ふるさと通信」の発刊にあたりお礼とお願いのことばと致します。

足利・名草ふるさと自然塾 年間プログラム

六月 田んぼの学校！

「田植え」

七月 大豆の力を学ぼう！

「種まきと豆腐作り」

田んぼの学校！

「田んぼの観察会」

親子でクワガタを育てよう

「成虫の飼育について」

八月 田舎体験ツアー！

そばをみんで育てよう！

九月 フラワーフェスティバル

「種まきと川の観察会」

ロープを使って木に登ろう

「ツリークライミング」

親子でクワガタを育てよう！

「幼虫の飼育について」

十月 田んぼの学校！

「稲刈り」

十一月 名草ふるさと収穫祭

そばをみんで育てよう！

「収穫」

大豆の力を学ぼう！

「収穫」

十二月 そばをみんで育てよう！

「そば打ち」

田んぼの学校！

「餅つき・しめ縄作り」

二月 大豆の力を学ぼう！

「味噌作り」

三月 里山の伝統炭焼きを体験！

「炭の窯入れ・窯出し」

私だけのしいたけを作ろう！

「しいたけの植菌」

(仮称)体験の家建設計画について

足利・名草ふるさと自然塾整備事業では、自然塾の管理・情報、体験・学習、サービスの総合拠点となる「(仮称)体験の家」(以下体験の家)を整備します。

「体験の家」の整備については、「(仮称)足利・名草ふるさと自然塾基本計画書」(平成十七年二月策定)において、「名草の伝統的民家をモチーフとした木造建築とし、外構に屋敷林や生垣を



(仮称)体験の家完成予想イメージ図

設けるなど名草らしさを演出するもの」という方針が出されました。

一方、この頃、足利市の民家調査で市内の特徴ある建物としてとり上げられた橋本家から、主屋の保存についての申し出があり、農務課では「橋本家」が「体験の家」の条件を備えているかの検討を行いました。その結果「橋本家

主屋」は名草地区に近い樺崎町に建ち、建築的にも名草の伝統的民家と類似性を持つと共に、足利の民家の特徴を備えている、歴史的建造物としての評価が高いことが認められました。また、維持管理面からは、改修が少なく保存状況が良好で、瓦屋根民家であり、維持管理し易い等評価され、建物規模及び土間の広さ等、利用活用上の条件を備えていることから、本建物を移築復元し「体験の家」として活用することを決定しました。

今後の利活用面では、名

草地区の拠点施設として、展示見学・利活用及び周辺の里山・敷地のまえにわと連携した体験事業を行います。体験の家ならではの魅力ある施設づくりを行っていくため、「年中行事(地域の行事)」「里山の恵を活かす(周辺の環境)」「体験の家を活かす(足利の民家)」「ことを基本軸として利活用計画を行っていくこととし、積極的な活用を可能としうる施設整備を行います。

具体的には、「学ぶ」「食べる」「ふれあう」をキーワードとして、「学ぶ」では、各種講座の開設やカルチャー教室の開催、「食べる」では、そば打ちや豆腐作り、味噌作り、餅つきなど各種体験教室の開催、「ふれあう」では、地域で開催される各種行事の場としての貸し出しや市民ギャラリ―として作品の発表、ボランティア活動の報告の場などの活用を想定しています。

現在まで行って来た、体験プログラムを更に充実させ、今後より多くの都市住民の方々、特に、埼玉、東京方面の方々にも名草地区に来ていただき、体験プログラムに参加していただけるよう努力してまいります。

旧橋本家家屋について

橋本家は江戸時代初期より続く樺崎町の旧家であり、神官の家で、現在も屋敷内に神社を所有している。明暦三年(一六五七)の墓石があり、それ以前から当地に住んでいたとされる。現当主俊雄氏が十二代目となる。現主屋は先々代の錦十郎氏(一八三八・夫保九年〜一九二二・明治四十五年)が三十歳代の時に建築したといわれている。

天保年間(一八三〇〜一八四三)には「大神宮」と呼ばれる寺子屋を行っていた時期がある。明治期には家内織物工業・木材業・農業等を行っており、終戦前までは屋敷の北側(道路の反対側)に煙草の乾燥蔵を持っていた。

橋本家は足利萬古焼きの創業者として知られている。江戸時代に伊勢参りの際に焼物職人を連れて来て焼かせたのが始まりで、現主屋の西側竹林の所に小屋を建て、職人を住ませた。萬古焼は一代でやめている。この地域には様々な年中行事が残っており、橋本家でも旧家として新年挨拶から始まり、年末の餅搗まで様々な伝統行事を今も継承している。

名草の魅力を探せ！写真コンクール

受賞者決定！

五月から十月まで募集した「名草の魅力を探せ！写真コンクール」の受賞者が決定しました。

写真の選考は、十月三十一日運営協議会会員十三名により行われました。

市内外から九十三点の応募があり、どの作品もすばらしい作品で選考には苦慮しました。

この企画は、写真を撮影するために、多くの方が名草へ訪問し、カメラを通して、地域の方にとってはありふれた風景の中で、名草の魅力を再発見するために実施したものです。

また、名草の美しい風景や名草で活躍する方々の表情を写して頂き、写真コンクールを開催する



自然塾会長賞「触合い」



名草地振協会会長賞「炭焼窯風景」

ことにより、出品されたものを使用して、名草の魅力を紹介する「名草ふるさと発見MAP（仮称）」を作成する予定です。

受賞者は、以下の通りです。

- ▽ 自然塾会長賞Ⅱ「触合い」石倉篤さん（芳町）
- ▽ 名草地区地域振興推進協議会 長賞Ⅱ「炭焼窯風景」浦野陽子さん（名草中町）
- ▽ 名草観光協会会長賞Ⅱ「名草の星たち」近藤美明（小俣町）
- ▽ ファミリー賞Ⅱ「お米大好き！田んぼ大好き！」小堀恵美子さん（新山町）
- ▽ 特別賞Ⅱ「さあ！植えましょう」新江義夫さん（堀込町）、「木登り体験」立野公克（大沼田町）



名草観光協会会長賞「名草の星たち」



ファミリー賞
「お米大好き！
田んぼ大好き！」



特別賞
「木登り体験」

やっただぞ！足利・名草ふるさと自然塾
「下野ふるさと大賞」準大賞受賞！

地域の特性を生かし、ふるさとづくりや地域の活性化に貢献している団体や個人を顕彰する第五回「下野ふるさと大賞」（主催・下野新聞社、協賛・カンセキ、キリンビール、栃木支社、東武百貨店、栃木銀行）において、足利・名草ふるさと自然塾が「準大賞」に選ばれました。

この大賞には、県内各地の五十九団体が応募しその中から荣誉に輝きました。

表彰式が、十一月七日、栃木県総合文化センターで行われ、大賞の那須町「余笹川流域連携ネット

ワーク」と準大賞の茂木町「入郷棚田保全協議会」とともに表彰を受けました。

この賞は、名草地区をはじめ多くの皆さんのご協力によるものです。本当にありがとうございます。



第5回下野ふるさと大賞表彰式



特別賞「さあ！植えましょう」



ごあいさつ

名草地区地域振興推進協議会
会長 山崎 福太郎

新年明けましておめでとうございませう。昨年は一月に県道飛駒名草バイパスの開通及びビジネスパークの用地完売、名草川河川工事も順調に進んでおり、又、北関東自動車道も日々完成に近づき、大変喜ばしく地区住民共々感謝いたしております。さて、名草地区におきま

しては五月の厳島神社弁天祭、六月はホテル祭を開催し多くの方々にご喜ばれております。今後も足利・名草ふるさとと自然塾と協力し、名草地区の観光振興及び人材育成に、地域をあげて取り組んで行きたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。



NPO法人
名草里山(NS)の会
Q&A

Q. 名草里山の会発足の動機は何ですか？

A. 名草里山の会の設立のきっかけは、平成十三年に、子供が少なくなつて活気がなくなつて来た名草の里を何とか元気にしようとして、熱く思う方々が集まり、併せて、足利市の掲げる「子どもの森構想」を支援する形で、名草里山の会の前身「名草リゾート研究会」として発足しました。

Q. 名草里山の会となつたのはいつ頃で、どの様な活動をして来ましたが？

A. 翌年の平成十四年に設立総会を開催し、以後毎月役員会を開催、活動をスタートしました。名草里山の頭文字を取り「NSの会」とも呼んでいます。活動では、第一次河川整備に着手、ヨシで人が入れなかつた河川の整備、トイレの設置、駐車場の整備と花壇の整備等行い、第一回ひまわりまつりを開催しました。

Q. 非営利活動法人(NPO)にはいつになりましたか？

A. 平成十五年六月にNPO法人として認可され、社会的使命を明確にした上で、自発的かつ継続的に社会責任を持つ団体としてスタートしました。

Q. 名草里山の会の活動目的は、どのようなものですか？

A. 名草地区の豊かな自然を背景に、「まちづくりの推進」、「環境の保全」、「子供たちの健全育成」を目的に活動し、目的達成のため、「里山の保全活動事業」、「市民との交流イベント」、「子どもの自然体験事業」を行っています。自然塾と全く同じです。

Q. 役員構成はどの様になっているのですか？

A. 役員理事は現在十五名で内容は次のとおりです。(兼ねている理事もいます。)

- 理事長 一名、副理事長 一名、総務部長担当 一名、事業部長 一名、経理担当 一名、炭焼担当 二名、シイタケ担当 二名、花つくり担当 二名、ピザ窯担当 二名、広報担当 二名、書記担当 一名、工務担当 二名、監事 二名

Q. 会に入る入会金はいくらですか？

A. 入会金はありません。年会費は、一般会員が三〇〇〇円で、賛助会員は一〇〇〇〇円です。

Q. 名草里山の会は、どの様な人達が入会していますか？又、現在何人の会員がいますか？

A. 会員の構成は、農家、林業、銀行員、会社社長、不動産業、水道業、土建業、建築業、家電業、測量事務所、幼稚園等様々です。

会員数は八十三名で、地域割りにすると、約三分の一が、名草地区外の皆さんで、男女別では女性が二十名程です。社会人なら年齢制限はありません。

足利・名草ふるさと通信では、今後自然塾の情報、名草の情報を発信して参ります。名草の身近な情報をお寄せ下さい。

【連絡先】

足利・名草ふるさと自然塾運営協議会
(事務局) 足利市役所産業・環境部農務課
電話 0284-20-2161
FAX0284-21-0643